

## 一つの地球で生きる

農林中金総合研究所は、中国の政府・研究機関関係者を対象に、日本の農業・農協等について紹介するセミナーを北京で開催してきた。平成16年度のセミナーは本年2月に、「日本における都市化の歴史とそれを支えた要因」をテーマに開催された。

中国では都市と農村の経済格差が著しく、その解消は、中国社会が安定的に発展していくうえでの最大の課題と言って過言ではないが、そのためには、農業の構造改革だけでなく、農村から都市への人口移出とその都市における労働力としての定着が不可欠である。このためセミナーへの関心は極めて高く、参加者によるハイレベルの熱心な討議が交わされた。経済発展や都市化のあり方、教育の役割、医療保険や年金等の社会保障制度の果たした役割等について意見が交わされ、日本の経験は大変参考になるという声が多く出された。

しかしまた、中国には中国固有の悩みが大きいことも強く感じさせられる。

中国の人口は現在13億人で、うち約40%が都市人口である。2030年の人口は16億人に増加するとみられるが、その75%が都市に居住すると仮定すると、2030年の都市人口は12億人で現在より7億人増加し、同年の農村人口は4億人で現在より3億人減少することになる。果たして今後わずか25年でこのような都市化を円滑にすすめられるであろうか。中国の都市建設は、農村における小城鎮（小都市）建設と上海に代表される巨大都市圏建設の二つの方向ですすめられているが、都市化は地域経済の動きとかけ離れたものではありえず、今後の都市化を考えるうえで課題は少なくない。

このように、今後の中国の経済・社会の発展は極めて大きな変化を伴い、それは世界全体に対しても大きな影響を及ぼすことになる。人口が増加する将来の中国の食糧需給見通しについてはさまざまな見方が行われているが、95%以上の食糧自給維持の方針が出されているとはいえ、中国の農産物の生産・消費動向が世界の農産物貿易に及ぼす影響はますます強くなるであろう。

さらに、筆者のラフな試算によれば、仮に将来中国の一人当たりの指標が現在のアメリカ並みになると前提すると、2030年の中国の商業エネルギー消費量は126億トン（石油換算）で現在の世界全体消費量の1.45倍に、中国のCO<sub>2</sub>発生量は329億トン（炭素換算）で現在の世界全体発生量の1.54倍に、中国の乗用車保有台数は77,900万台で現在の世界全体保有台数の1.30倍の規模になる。すでに地球温暖化の兆候が随所に表れつつあるにもかかわらず、将来中国だけで地球が二つ必要になることになる。しかしだからといって、先に発展した国が中国に発展をやめなさいと言うことなどできるはずがない。

このように、中国がいかなる発展の道を歩むか、中国が抱える課題をいかに解決するかは、中国一国の問題ではなく、世界、とくに東アジア諸国にとっての、共通の課題である。

「政冷経熱」や「反日」などの問題に適切に対処することはもちろんであるが、さらに、一つの地球で持続的に豊かに生きるためにどうすればよいか、そのような長期的視点にたって、各分野で日中の交流と連携をさらに深め、共通の課題に取り組むことが求められている。

((株)農林中金総合研究所基礎研究部長 石田信隆・いしだのぶたか)